

国際関係法学部 ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) 及びアセスメント・ポリシー

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー			
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	<p>卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。</p> <p>また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。</p> <p>その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。</p>			
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。				
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。				
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。				
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法			
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会現象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	主要科目 教養科目	
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルシデリタシー	
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライフデザイン応用	
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教教学 ライフデザイン基礎 西南学院史	
第二層 (専攻科目)			A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。		
	A-2	過去を踏まえて国際社会の実情を把握し、それと関連する国際関係法学の基礎的な概念および理論を適切に認識することができる。	国際関係法学全体の基礎およびその根幹をなす現代社会の実情を把握・認識する導入科目を1年次に配当し、それを前提として法学の中核となる専門的知識を理解するための国際関係法学・政治学・法律学の基本科目を1～3年次に配置する。	A-2	国際関係法学・政治学・法律学に関する知識・技能を養成する科目において、それら諸学の歴史に加え、学修者自身の説を論述する小テスト、レポート、定期テスト等によって、学修成果を測定する。	基礎演習
	A-3	国際社会の実情に向き合うために、国際関係法学の基礎的な概念および理論を正確に理解することができる。		A-3		政治学原論II
				B	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定する。	
	B-2	国際関係法学の基礎的な概念および理論を国際社会の実情に応用し、その結果を明確に提示することができる。	国際関係法学の高度な知識を修得し、それを用いた法的思考・法的解釈を提示するための国際関係法学・政治学の発展科目および専門演習(演習・実務関連科目)を2～3年次にかけて配置し、国内外の社会の実情を理解し、法的思考・法的解釈を異なる視点から比較するための法律科目を2年次に配置する。	B-2	国際関係法学・政治学・法律学に関する思考力・判断力・表現力等を養成する科目において、小テスト、レポート、定期テスト等によって、その都度の各能力の伸長度を確認し、学修成果を測定する。	国際人権法
	B-3	国際関係法学の発展的な概念および理論を幅広く学び、国際社会の実情を複数の視点から分析することができる。		B-3		国際商事仲裁
				C	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	
	C-2	変容する国際社会の諸現象に関する課題を発見し、国際関係法学のみにとらわれない広い視野と批判的見地から評価することができる。	国際関係法学の概念・理論を前提として、2～4年に先端的な法的問題を理解・解決する力を身につける国際関係法学・政治学の発展科目および専門演習(演習・実務関連科目)を配置し、この問題の理解・解決を諸外国の法制度や政治など幅広い見地から行うための法律科目を2～3年次に配置する。	C-2	国際関係法学・政治学・法律学に関する理解力、問題解決力、創造性等を養成する科目及び演習において、学修者の発表・実演、授業への参加態度、学修者による報告書等によって学修成果を測定する。	国際協力論
	C-3	変容する国際社会の諸現象の課題を解決するため、あるべき国際社会を展望して新たな秩序を形成することへ、国際関係法学のみにとらわれない広い視野から能動的に参与することができる。		C-3		専門演習II
				D	各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	
D-2	人権・遵法意識と倫理観を備え、公平・公正な観点から国際社会における多様性を受容し、国際社会の諸現象に敏感に反応することができる。	法的問題解決力を身につけるための発展法科目を2年次及び3年次を中心に配置し、法的な議論を行うことができる力を身につけるための演習・実務関連科目を1年次より配置する。	D-2	国際関係法学・政治学・法律学に関する問題解決力、議論を行う力、態度、志向性等を養成する科目及び演習において、先行研究の精査や主題の独創性及び学問的意味をふまえ、レポートや研究発表等によって学修成果を測定する。	インターナショナル・サービス・ラーニング	
D-3	国際社会を基礎づける多様な価値観に基づき、独立した個人として自ら進んで学が高い意欲を身に付け、積極的に市民社会を担うことができる。		D-3		専門外国語	